

第2号様式（第3関係）

第2回豊山町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事録

1 開催日時

平成29年3月22日（水）午前10時15分から午前11時15分まで

2 開催場所

会議室3・4

3 出席者

（1） 委員

高橋 真委員（愛知学泉大学現代マネジメント学部教授）

佐々嘉則委員（名古屋空港ビルディング株式会社代表取締役社長）

川上由郎委員（三菱東京UFJ銀行小牧支店長）

奥本哲巳委員（三菱重工労働組合名古屋航空宇宙システム製作所支部副委員長）

船橋和志委員（株式会社小牧サービス代表取締役）

櫛田和裕委員（尾張中央農業協同組合豊場支店長）

中山 拓委員（学校法人豊山学園 園長）

池山由宣委員（豊山町まちづくりサポーター）

（2） 事務局

総務部長 安藤光男

総務課長 小川徹也

総務課企画財政・情報係長 井上武

総務課企画財政・情報係主査 牧野礼男

ランドブレイン株式会社 野々山桂

4 議題

地方創生加速化交付金により今年度実施した事業について

5 会議資料

（1） 次第

（2） 資料1 地方創生加速化交付金により今年度実施した事業について

（3） 資料2 交流拠点における環境充実事業

- (4) 資料3 豊山航空フィールドミュージアム構想
- (5) 資料4 とよやままちサポ!
- (6) 資料5 観光誘客のシナリオ・施策案・実施主体・実施時期
- (7) 参考資料 豊山町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱

6 議事内容

(1) 会長挨拶

まち・ひと・しごと創生総合戦略のような行政の戦略的な推進は、ホームランを打とうと思ってもなかなか難しい。地味であってもシングルヒットを2本、3本と重ねていけばホームランと同じことになると思う。ヒットでも前に出て豊山町の戦略を推進していきたい。委員の皆様の御協力をお願いします。

(2) 会議の成立についての報告

豊山町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱第6条第2項の規定に基づき、会議の成立には委員の過半数の出席が必要であるところ、現在の出席委員は8名中8名であり、本会議は成立していることを御報告する。

(3) 議題

地方創生加速化交付金により今年度実施した事業について

事務局：資料1～5に基づき説明

(質疑)

A委員：しっかりまとめられている。ターゲット4の他県とか訪日旅行者について、ご存知だと思うがJRグループの大型観光キャンペーンが平成30年秋に愛知県への送客を目的に開催される。平成29年度はその準備などをされると思う。この機会を捉えて豊山町にも来ていただくことを図っていただきたい。

新幹線で名古屋に来た方に豊山町にも来ていただくため、公共交通機関に関する要望書を提出した。秋から始まる名鉄バスの名鉄バスセンターから豊山町への直行便はその効果の1つだと思う。

豊山町もこの機会を捉えて、平成30年秋に向けて取り組んでいただきたい。新しくできるレゴランドやMRJ最終組立工場など愛知県全体でみると本当にいろいろな素材がある。もっと日本中の方に知っていただける豊山町になるのではないかと思ったので発言させていただいた。

事務局：本町もJRの大型観光キャンペーンに参加をして取り組んでまいる。愛知県全体なので豊山町が埋もれてしまわないようにしっかりとPRをしていきたい。その際は連携をとって進めていく機会もあるかと思うので、よろしくお願ひしたい。

B委員：3つの航空関連施設を観光の題材とする場合に、3箇所を結ぶ交通機関という将来的な構想はあるか。1箇所ずつでは魅力が半減してしまう。無人のモノレールのようなものがあればよいかもしれない。

事務局：ご指摘のとおり1箇所1箇所では魅力が弱くなる、それらをつなげるということは重要だと認識している。モノレールはなかなか難しいと思っているものの、将来的にはバスで3箇所、4箇所を周遊できるようになっていければよいと思っている。無人運行バスや、セグウェイの貸出しなどもできるとよい。

B委員：セントレアでは空港の働いている人、働いている場所を見るツアーがある。そのように、働いている人を見ていただくような形にすれば、名古屋空港など豊山町で働きたいという子どもも出てくるのではないかと思う。マニアのような方だと航空機、航空関連のものを見るためだけに来ているので、定着・定住していただくのは難しい。子どもたちに豊山の航空関連の人が働く姿を見せることが定着・定住していただくことにつながる。県などとも相談していただいてそのような取組をしていただくのがよいのではないかと思う。

A委員：今発言があったとおりだと私も思う。昔、名古屋空港に国際線と国内線があった当時は、国際線と国内線を結ぶシャトルバスが走っていた。一つ一つ見てよいものがあったとしてもそれをつなぐ移動手段があると相乗効果が期待できる。ぜひ豊山町と県が一緒になってMRJの最終組立工場とあいち航空ミュージアムを結ぶシャトルバスが実現できるようにしてほしい。

会 長：トヨタ自動車が一入乗り自動車をプロモーションしている。道路交通法的な制限はあるかもしれないが、セグウェイのほか、そういうものを活用していく方法もあると思う。

C委員：飛行機のことをテーマにしたイベントを、人が集まるエアポートウォークで開催したことはとてもよかったと思う。人が自然に集まる場所でPR活動をするというのは大変効果的。これからもたくさんやっていったほうがよい。

A委員：シアトルの航空博物館とあいち航空ミュージアムが姉妹提携をする。3月30日に、シアトルの航空博物館の方が豊山に来られる。名古屋空港、エアポートウォーク名古屋や、あいち航空ミュージアムの建設現場も見学される。外国との結びつきが生まれる。県営名古屋空港と、シアトルにも近い同じワシントン州のモーゼスレイク空港が提携を結ぶと聞いている。愛知県はその空港や航空博物館のあるワシントン州と提携を結ぶ。豊山町もシアトルは大きすぎるがモーゼスレイクなら人口規模も同じぐらいなので、提携したらよいのではないかと考えた。

事務局：モーゼスレイクなら同じ郡という規模の都市であり、とても夢のある話。実際に提携できるかどうかは、まだまだ内部で練らなければならないものの、実現できたらよいと思う。

D委員：駐車場について気になっている。今後來街者が増えてくるにつれて、公共交通機関を使うのはもちろんよいものの、自家用車もやはり増えてくる。駐車場の確保についてはどのように考えてみえるか。

事務局：資料3の最後に、「駐車場不足解消に向けた交通対策案の検討」を今後の課題として掲げている。まずは、公共交通の利用を促進することが、町民の方の交通利便性の向上にもつながり、働きかけをしていきたい。駐車場を確保していくための検討もしていかなければならないと思っている。

D委員：町として、航空館b o o nを盛り上げて行きたいと考えてみえると思う。航空館b o o nの周辺には駐車場になりそうな企業もない。無人自動車の運行やセグウェイなどは私も非常に面白いと感じた。大山川の堤防を歩いたりすることができればよいと思うものの、大山川の堤防は自動車の通りも激しいのでウォーキングに行くのもなかなか厳しいというのが現状。堤防上の道路についての施策などはどのようにお考えか。

事務局：現在大山川の北側、右岸の堤防道路については整備中である。数年後には今の堤防道路を歩道と自転車の専用道路とし、堤防の北側の下の道を自動車専用道路にする予定である。

C委員：関東でも豊山町という名前はあまり認知されておらず、有名なのはMR Jということになる。今までお話をうかがっていて、よい施設もかなりあるのだなと感じた。た

だ主要な施設間に距離がありバス等の整備も時間がかかる。東京などでは1000円のレンタサイクルが設置されている場所がかなりある。至る所にレンタサイクルのスポットがあり、乗り捨ても可能になっている。自転車では大量の輸送機関になるとは思えないものの、豊山町は観光資源が豊かなまちでもあるし、自転車の活用も考えてもよいのではないかと思う。東京都内では公園等いろいろなところに無料あるいは低額の乗り捨てができるレンタサイクルがある。1箇所にも70～80台の自転車が用意されているところもあり、10分程度の距離なら自転車でもかなり効果があるのではないかと思う。

ほかには、観光が発展し来街者が増えてくると宿泊施設が気になる。大規模な宿泊施設が必要かどうかは別にしても、何らかの形で宿泊施設があった方がよいのではないかと思った。

また、子ども連れなどのファミリー層が喜ぶのは体験型の施設である。いわゆるキッズニアのような施設に人気がある。物を作ることができる子どもが喜び、子どもと一緒に大人も来る。そのようなテーマパークは簡単にはできないと思うものの、MRJがこれだけ有名なので飛行機の体験ができる施設、フライトシミュレータのようなものがあるとよいと思う。

E 委員：豊山町まちづくりサポーターの会員数が増えたとよいのではないかと思う。インターネットとかグルメマップとかいろいろな活動・発信をしているものの、周りの市町村にそれらが伝わっているかというところ少し足りないように感じている。まちづくりサポーターの記事が「ぶるうむ」に掲載されていたようだが、小牧でも一部配布されていないところもある。そういうことも考えて情報発信も考えていかなければならない。町からの協力依頼があれば積極的に協力していく。

今まであまり出てこなかったものの、イチロー選手のミュージアムもある。イチロー記念館や空港バッティングセンターも含めてバスでつなぐなど、イチロー選手関係も豊山町の観光戦略に入れていく必要があると思う。

資料3、24ページの「豊山町に来るアクセスのしやすさ」の中の問12の一番下の「観光に関する情報の入手のしやすさ」というところだが、「やや不満」というものがあるがこれについて町はどのように考えているのかお聞きしたい。やはり観光に関する情報をきちんと発信していかないとどこに行ったらよいかわからないのではないかと思う。

事務局：「観光に関する情報の入手のしやすさ」で「やや不満」が多いということについて、確かにこれまでは「観光に関する情報発信」という視点からの取組については豊山町は必ずしも力が入っていなかったと思う。今回、航空産業観光の促進のため28年度

事業で観光に関するホームページをまちづくりサポーターと連携して立ち上げている。観光ホームページや、新たに作成するパンフレットなどを使ってPRをしていきたい。さらに、積極的なプレスリリースをして、観光としての豊山町をPRしていきたい。

E委員：しっかりプレスリリースをしていただきたい。そういうところから情報発信をきっちりしていけないといけないと思う。

F委員：宿泊施設について、日帰り観光をターゲットにするのか、もう少し時間を使ってもらって宿泊客もターゲットにするのかを考えていけないといけないと思う。豊山に少しでも長く滞在していただくようなことも考えていくほうがよい。農業の体験に加えて今回出ているMR J等の工場見学をセットにするなど小さいお子様をターゲットとした体験型の旅行ができればと思う。豊山は日帰りだけの観光地ではないですよという面も考えて行く必要があると思う。

会 長：宿泊と日帰りでは落とすお金も違う。

事務局：おっしゃるとおり宿泊施設が整っていれば落とすお金も違ってくる。町として何ができるかというのは難しい面もあるものの、まずは多くの方を呼び込んで民間の需要を喚起していく。

G委員：私も豊山町に来たいと思っていただける人を増やしたいと考えているものの、現状では宿泊客を増やそうというのは少し難しいと思う。泊まってまで見るべきところがそんなにたくさんあるのかなとも思う。当面は日帰りで来る方をターゲットに頑張っていくことでよいと思う。

産業のまちでもあるので、例えば出張で来た方が快適に滞在できるような場所を目指すというのはあると思う。その場合に一番必要になってくるのは飲食ができる場所だと思う。もちろん泊まる場所も必要だが町の中で飲食ができるというような情報が広く発信できたらよいと考えている。

先ほどお話しが出ていたように、やはりシャトルバスで北の航空館boonから南のエアポートウォーク名古屋まで回すということは必要だと思う。あとは外から来る方がどこを町の入り口にするのかということが問題。おそらく子ども連れの方がエアポートウォーク名古屋に行ったらエアポートウォークだけで1日終わってしまう。いろいろな所に行ってみたいと思わせるような仕掛けが必要。そのあたりの見通しが立っていればお話を聞かせていただきたい。

事務局：エアポートウォーク名古屋は現時点において、本町で最も集客力のある施設で、尾張北部でも特段に高い集客力を有する施設と聞いている。そのエアポートウォークに来たファミリー層向けの施策として、先ほど御説明した近隣市町のファミリー層向けのシナリオを描いている。エアポートウォーク名古屋に来るファミリー層向けのパンフレットやSNS・ホームページを使った情報発信をし、単発イベントを開催していくことも検討している。3月11日にモデル的なイベントも実施した。これらを通じて来訪者に「豊山町にはエアポートウォーク名古屋以外にも様々な楽しい施設があるんだ」ということを知っていただいて、周遊するきっかけをつくっていききたい。

会 長：豊山町には天狗伝説がある。非常に近代的な航空機産業と天狗という古い文化とのコントラストがあれば町の発信としてはユニークなものになるのではないか。

今回は非常によく考えられて全体像がみえるような形で提示をしていただいている。今後この航空フィールドミュージアム構想に基づいて豊山町の観光が進んでいくものと考えている。

D委員：1つ要望というか、町にお願いがある。産業観光推進事業に、町民の御協力を得られるように取り組んでいただきたい。

F委員：先週の金曜日にテレビで名古屋市周辺市町村について放送していた。その中で「豊山町に何がありますか」という質問に対して町民の方がなかなか答えが出せずにいらっしやる場面があった。町民の中には、自分の町に何があるのかを知らないという人もいる。それでは、せっかく訪ねてきた方が町民の方に「ここはどこにありますか」と聞いた際に町民の方が答えられないという可能性もある。住んでいる町民の方にも、町の資源や歴史についてもっと知っていただくこともPRにつながる。

会 長：地元の方が知らないとはまらない。

D委員：まちづくりサポーターは、シビックプライドの形成、町民の愛着・誇り、当事者意識の醸成をコンセプトとして活動している。そのためにもぜひ町の協力を全面的にお願いしたい。

会 長：ほかにはよろしいか。

(特に意見なし)

長時間に渡り議論していただき感謝する。これをもって会議を終了する。